

1 学校教育目標

かしこく やさしく 元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | |
|---------|--|
| ○学校像 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供の知を高める学校（学力の定着、学ぶ意欲の向上） ・子供の徳を深める学校（思いやりの心、自他を尊重する心の醸成） ・子供の体力を高める学校（健康な心と体の育成） |
| ○児童・生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> ・かしこい子（めあてをもち、すすんで学習する子） ・やさしい子（自分と周りの人を大切にする子） ・元気な子（運動を好み、楽しむ子） |
| ○教師像 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童理解と自己研鑽に努め、児童の成長に全力を注ぐ教師 ・組織の一員としての自覚をもち、協力して職務を遂行する教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1. 学校の現状

今年度創立121周年を迎える、歴史と伝統ある学校で現在は通常学級12学級、特別支援学級3学級の編成である。児童は学ぶことに興味をもち、真面目に取り組んでいる。一方、自信をもつこと・自己肯定感に関しては課題がある。教職員は、若手教員が多い中、先輩の教員が学習指導、生活指導、校務分掌等において丁寧に指導している。保護者、地域は本校の教育活動を理解し、協力的である。開かれた学校づくり協議会やPTAを中心に、朝の見守りや長期休業中のパトロール、朝学習の丸付けや図書ボランティア、校外学習の際の付き添い等、この他にも学校への協力を惜しまない。

2. 前年度の成果と課題

重点的な取組事項1 基礎学力の向上

学力の分析、補充指導を計画的に行った。校内研究は国語科に取り組んだ。区調査は区平均にとどくまで上昇した。

重点的な取組事項2 自ら正しく判断し、行動する心の育成

教員で児童の状況把握と対応策を共有した。SC等との連携を深め、いじめの全件解消、不登校傾向の児童に対する手立てをさらに充実させていく。

重点的な取組事項3 体力向上

投力はコロナ過で測定はできなかったが、体育学習で取り組めた。生活習慣は給食後の歯磨き、むし歯の治療等に課題が残った。

4 重点的な取組事項

| | 内 容 | 実施期間（年度） R:令和 | | | | |
|---|--------------|---------------|----|----|----|----|
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
| 1 | 学力向上アクションプラン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 教師の指導力向上 | | | | | |
| 3 | 児童の心身の育成の充実 | | | | | |

5 令和3年度の重点目標

| 重点的な取組事項－1 | | 学力向上アクションプラン | | | | | | | |
|---------------|-------------|----------------------------|-------------------|---|-------------------------------|--|------------------------------------|---|-------------|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 (目標通過率) | | 実施結果 (通過率結果) | | コメント・課題 | | 達成度 ◎○△● | |
| 区調査の目標通過率83% | | 年度末までに区調査を再実施し、通過率を90%にする。 | | 12月の調査(通過率)で、国語95%、算数92%になった。 | | アクションプランの成果が出た。今後も丁寧に進めていく。 | | ◎ | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | | | | | |
| 新・継 | アクションプラン | 対象・実施教科 | 頻度・実施時期 | 具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように) | 達成確認方法 | 達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度) | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 ◎○△● |
| 1 継続 | 朝学習・放課後補充教室 | 全児童 国語、算数 | 朝:水金 放:月火木金 | 朝学習(担任) 国語:校内漢字検定 算数:さかのぼり学習 東京ベーシックドリル 放課後(担任・副担任) 朝学習の点検・復習、当該学年のつまずきの解消 | 定着度確認テスト(区調査の再テスト)(7月・12月・2月) | 12月までに実施する定着度確認テストで目標値を90%の児童が通過する。 | 12月の調査(通過率)で、国語95%、算数92%になった。 | 目標は達成できたが、90%を超えていない学年・教科について課題を明確にして指導していく。 | ◎ |
| 2 継続 | ベーシックタイム | 全児童 国語、算数 | 各学級 1時間/週 | 担任 週1時間、つまずきが見られた国語か算数の学習 | つまずき部分の学習終了後、定着度を測る | 既習事項の定着度90%以上。 | コロナ禍で取り組めなかった時期があったが、それ以外はしっかりできた。 | 通常の教科学習をすすめる中でのベーシックタイム実施が難しかったが、できるだけ実施していく。 | ○ |
| 3 継続 | 家庭学習習慣の定着 | 全児童 全教科 | 通年 | 担任 家庭学習カードの提出年5回、提出率を算出 | 家庭学習カード提出提出率の算出 | 家庭学習提出率88%以上。 | 秋の算出では平均84%だった。 | 学年によって差があるので指導していく。 | △ |
| 4 継続 | 読書活動の充実 | 全児童 国語 | 適時 | ・読書記録カードの活用 ・教員、図書ボランティア等による読み聞かせや本の紹介を実施 | 読書記録カード | 全児童の年間平均読書冊数を30冊以上とする。 | 読書冊数は12月で平均27冊だった。 | 読み聞かせや本の紹介はできた。読書冊数を3月までに伸ばす。 | ○ |
| 5 継続 | ニュース見つけた | (4)5・6年生 国語 | 月曜～金曜 クラス内で交代制 | 担任 各学級に每日一紙配布し、気になった記事の内容と考えをまとめさせる。 | 記事の内容のまとめと自分の考えの記述 | 8月末までに全員が取り組む。秋以降は詳しく自分の思いを書き表せるようにする。 | 秋以降、4年生も取り組めるよう指導できた。 | 特別支援学級の児童もできることを増やそうと努力したことを評価したい。 | ◎ |

| 重点的な取組事項－２ | | 教師の指導力向上 | | | |
|--------------------|---|--|---|--|-----|
| 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 教師の各職層における資質・能力の向上 | | 足立スタンダードに基づく授業観察カードにおいて、評価レベルを平均で2以上上げる。 | 授業観察の評価レベルが2以上であった。 | 教員によって個別の課題があるので、引き続いて指導していく。 | ○ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| ICTを活用した授業の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・若手研修会(年10回)でICT研修会を設定 ・プログラミング的思考を取り入れた授業プラン案の作成(全学年) ・タブレット端末等を活用したわかりやすい授業づくり(全学年) | <ul style="list-style-type: none"> ・若手研修会のうち5回をICT研修会とし、指導技術の向上につなげる。 ・プログラミング的思考を育成する授業プランを全学年で作成 ・足立スタンダードをもとにしたアプリケーションを全学年で活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・若手研修とICT研修を連携させて実施できた。児童への指導にもつなげることができた。 ・プログラミング的思考を育成する授業プランを今年度中に作成する。 ・タブレット機を活用した学習が展開できている。 | ICT委員会が意欲的に取り組み、全校で機能することができた。次年度もさらに充実していく。 | ○ |
| 校内研究会・校外研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会で分科会提案の研究授業の実施 ・毎月の区小研への教員の全員参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・分科会ごとに研究授業(事前授業含む)を実施し、分科会組織で取り組む。 ・担当教科の研究発表会等への参加。職員夕会や研修会等で報告。 | <ul style="list-style-type: none"> ・予定通り校内研の実施ができた。事前授業も多くの教員が参加し、研究を深めることができた。 ・コロナ禍のため参加できない月もあったが、できる時は毎月区小研に参加することができた。 | 校内研究では分科会ごとに熱心に研究できた。次年度も継続していく。 | ○ |
| | | | | | |
| | | | | | |

| 重点的な取組事項－3 | | 児童の心身の育成の充実 | | | |
|---------------|---|--|---|---|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 児童の心と体の健全な成長 | | 年度末の児童、保護者、地域、教員の学校評価アンケート肯定的なもの85% | ほとんどの項目で85%を上回ったが、心の育成に課題（保護者アンケート80%）が残った。 | 実際に見えない部分も多いため、「わからない」が13%学校の取り組みを伝えていく。 | ○ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 豊かな心の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度末実施の「花畑小学校のきまり」のチェックにおける、良好な結果90% ・いじめの解消率の向上 ・QU調査の分析を生かした学級経営 | <ul style="list-style-type: none"> ・「花畑小学校のきまり」の年3回のチェック実施 ・いじめアンケートの結果を基にした未然防止と早期対応 ・QU調査の分析と共有 | <ul style="list-style-type: none"> ・「花畑小のきまり」のチェックは実施できた。12月の時点で全項目平均92%だった。 ・QU調査の結果を分析し、個に応じた指導できた。 | 「花畑小の決まり」に関しては全ての項目でクリアしたわけではないので、ポイントが低かった項目に指導の焦点を当てる。※△「次の時間の学習準備」 | ○ |
| 健康な身体の成長 | <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間外遊びをする児童85% ・運動能力調査の結果の向上（ソフトボール投げ前年比0.5m） ・外部機関と連携した健康教育の授業、研修会年2回以上の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・日直、生活指導部会を中心とした声掛けと、教員も加わった外遊びの実施 ・年間計画に基づいた投力向上の取組の充実 ・保健師、学校医その他を講師とした授業、研修会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員も外へ出て遊ぶことができたが、コロナ禍ということもあり、80%程度だった。 ・ソフトボール投げの結果比較（一昨年度、全校平均）で、-8.7mだった。 ・外部講師を招いた授業は実施できなかった。研修会は実施できた。 | いろいろと計画はしたが、コロナ禍で実施が難しかった。次年度はできるところから実施していく。 | ● |
| 特別支援教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会の開催月1回 ・特別支援教育に関する校内研修会の実施年4回 ・SC、外部講師による研修会の実施年3回 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会における支援を要する児童と家庭についての協議の実施 ・特別支援コーディネーター等による事例研修会の実施 ・特別支援等についてのスキルをもった専門家による研修会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回以上特別支援委員会の実施をして、支援を要する児童や家庭について協議した。 ・特別支援コーディネーターによる事例研修会を4回実施できた。 ・専門家による研修の実施はできなかった。 | OJT研修と関連させて特別支援教育の研修会ができた。次年度も他の研修等と関連付けながら実施する。 | ○ |

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

○学力向上アクションプランについて

【課題】

- ・学校としての目標（全校平均90%通過）は達成できたが、国語では4年生、算数では3年生と5年生が90%に達しなかった。

【対策】

- ・国語に関しては、聞き取り問題の正答率が低かった。どの学年にも「話し方・聞き方」の単元が設定されている。時間数としては少ないが、軽視することなく、指導を充実させていく。また、常時活動においても話し方、発表の仕方の工夫などに焦点を当てて指導を継続する。
- ・算数に関しては、数量関係に課題が見られた。2クラス3展開で習熟度クラス別の学習を行っているので、クラスの中で課題に重点を置いて指導を進める。また、どの学年でも体験的な活動や具体物を使った学習を多く取り入れ、抽象的な概念をできるだけ具体化させる。
- ・今年度は朝学習や放課後の補充教室をしっかりと取り組んだ成果が出た。さらにベーシックタイムや家庭学習の充実を図ることで成果の維持、伸長につなげたい。

○教師の指導力向上・児童の心身の育成について

- ・ICT委員会の設立により、組織的に対応できた。研修等も適時行うことができ、タブレット端末を活用した授業を展開することができた。ICT委員会の組織的な運営がさらにスムーズに行くように、今年度の課題を整理して新年度の組織編成に生かす。
- ・「健康な身体への成長」において、コロナ禍のため外遊びの充実や外部講師による授業の実施ができなかった。令和4年度もまだ見えないところであるが、計画を立て、対応できるようにする。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者の皆様・地域の皆様・開かれた学校づくり協議会の皆様には日頃からのPTA活動のご協力、放課後子ども教室、様々なボランティア活動等でご尽力を賜り大変感謝しております。令和3年度は1年延期していた創立120周年の記念式典を無事に開催することができました。皆様のご協力があったの式典になりました。誠にありがとうございました。令和4年度も今まで同様ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

「学校大好き みんなの花畑小学校」をスローガンにし、子供たちや保護者・地域の皆様に愛される学校づくりを目指します。その中で、「花畑ビューティフル・スクール運動」を展開し、子供たちが自ら「居心地のいい学校づくり」を目指します。